



耳が詰まった感じがあり、急性低音障害型感音難聴と診断。突発性難聴とは違う？

50歳、女性。左耳が詰まった感じがあり、耳鼻咽喉科を受診すると急性低音障害型感音難聴といわれ、薬を処方されました。初めて聞く病名ですが、突発性難聴とは違うのでしょうか。(山梨県 Y)

あなたの相談に
専門医がお答えします



突発性難聴はさまざまな音域で難聴がおこり、急性低音障害型感音難聴は低音で聴力が低下する

急性低音障害型感音難聴は、ある日突然、耳が詰まるような耳閉塞感、耳鳴り、難聴などがおこり、耳鼻咽喉科の聴力検査で低音領域に限定して聴力が低下していることで診断される病気です。急性感音難聴を来す疾患のなかでもっとも多く、近年、増加傾向にあります。本疾患と同じような症状で難聴となる病気に突発性難聴があります。突発性難聴は低音領域に限らず、低音から高音までいろいろな周波数の領域で難聴がおこり、男女差はなく、50〜60代に発症することが多い疾患です。それに比べて、急性低音障害型感音難聴は女性に多く、好発年齢は30代です。また、突発性難聴はくり返しおこることの

ない疾患ですが、聴力の改善が悪いケースや、とくに重症例では聴力がまったく回復しないことがあります。一方、急性低音障害型感音難聴の多くは軽症で治りやすいものの、くり返し再発することがあります。また、両耳におこることがあり、一部の人では、メニエール病に移行するケースもあります。急性低音障害型感音難聴も突発性難聴も原因は不明、または不確実とされていますが、かぜや過労、睡眠不足、気候の変動などが引き金になっているようです。近年、メニエール病と同じように聴覚や平衡感覚をつかさどっている内耳のむくみ（内リンパ水腫）の関与が指摘されています。

耳閉塞感と難聴でもっとも多いのは耳垢栓塞、耳管狭窄症などの外耳と中耳の病気です。急性の低音障害型の感音難聴を来す病気では、外リンパ瘻、音響外傷、小脳橋角部病変、特発性低髄液圧症候群など、まれな疾患もあります。急性低音障害型感音難聴は、原因不明な急性感音難聴であること、病気の原因として内リンパ水腫が想定されていること、自然治癒例も少ないことなどから、治療には安全性の高い浸透圧利尿作用のあるメニエール病改善薬でもあるイソソルビドが主に使われます。そのほかに、副腎皮質ステロイド薬、代謝賦活薬、ビタミン薬などの薬剤が用いられています。

健康相談室



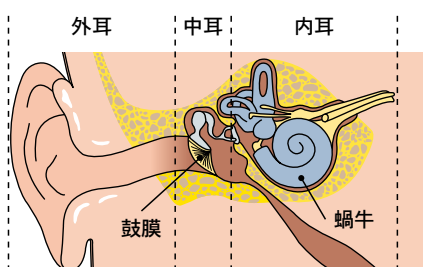
回答者



自由が丘耳鼻咽喉科
笠井クリニック(東京都)
院長

笠井 創

[耳の構造]



空気の振動として耳に入ってきた音は、外耳から鼓膜と中耳を通り、内耳の蝸牛に伝わる。急性低音障害型感音難聴は、蝸牛の内リンパ腔にある内リンパ液がふえて内耳がむくむことでおこるとされている。